

鎌倉市公共施設再編計画 NEWS No.13

平成28年10月発行

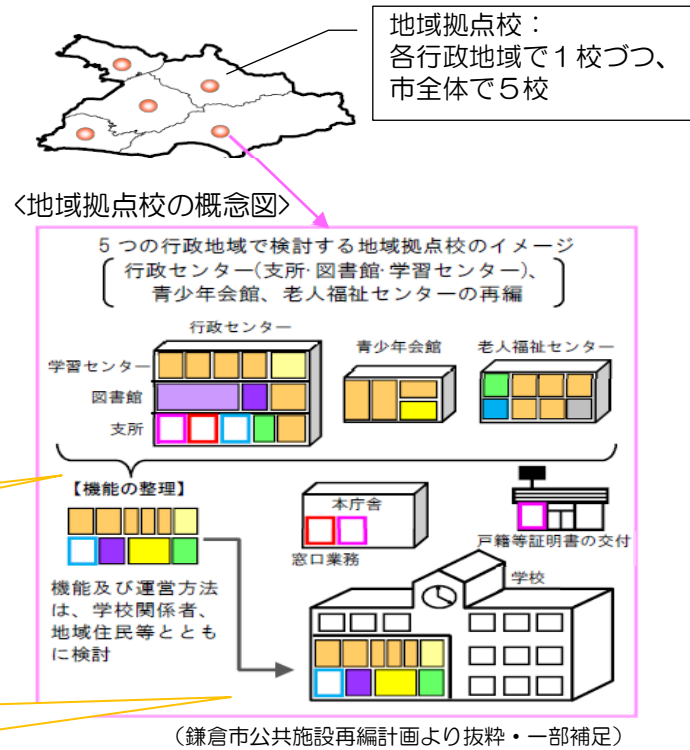
●地域拠点校の選定に取り組んでいます

鎌倉市は平成27年3月に策定した鎌倉市公共施設再編計画に基づいて、平成28年度末までに地域拠点校の選定を目指して取組を進めています。その一環として、これを検討する鎌倉市地域拠点校選定委員会（以下「選定委員会」）を開催いたしました。

●地域拠点校とは

地域拠点校とは、各行政地域にある学習センターや老人福祉センター、図書館等の機能のうち、各行政地域に必要な機能を精査した上で、地域活動の場や多世代が多目的に利用できる多世代交流スペースとして機能を集約するための学校です。

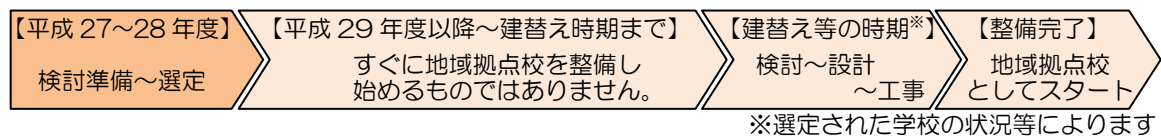
まずは、平成28年度末までに、各行政地域の小中学校1校を選定することを予定しています。選定した地域拠点校の整備は建替え等にあわせて、教育環境の維持向上や安全性等に配慮した上で行っていきます。



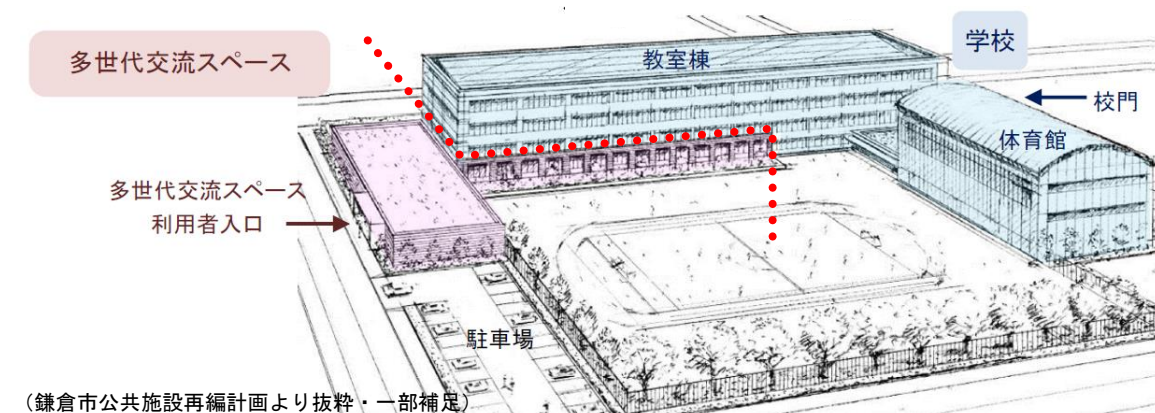
公共サービスのあり方や公共施設の配置の見直し

個別施設で提供されている類似機能を集約し、学校を中心に集約化・複合化

〈(参考) 全体なスケジュールのイメージ〉



〈地域拠点校（学校への他世代交流機能の複合化）のイメージ〉



●第1回鎌倉市地域拠点校選定委員会を開催しました

8月31日(火)に第1回選定委員会を開催しました。これは、鎌倉市地域拠点校選定委員会条例に基づいて設置され、学識経験者などにより、地域拠点校の選定について審議する会議です。本委員会は「地域拠点校の選定」について、今年度末までに市長へ提言することを予定しています。

はじめに

冒頭、市長より、見通しの厳しい財政状況のなか、公共施設の老朽化に伴う維持管理・建替え費用の増大が見込まれるため、公共サービスのあり方や、公共施設の配置を見直し、学校に集約化・複合化することで地域コミュニティ形成の核となることを期待している地域拠点校の選定について、様々な見地から審議していただきたいと挨拶がありました。



市長挨拶

選定委員会について

選定委員会は学識経験者4名、学校教育・社会教育の関係団体からの推薦者3名、公共的団体からの推薦者4名、合計11名の委員によって組織されています。委員長には本市出身で本市の審議会の委員経験豊富な東北芸術工科大学教授の志村直愛氏、副委員長には老人クラブ連合会副会長の石渡好行氏が選出されました。

選定委員会は公開しています

選定委員会は公開しています。傍聴のご案内は、広報かまくら及び市ホームページにて行っていきます。また、会議の資料等も下記の市ホームページで公表していますので、是非ご覧ください。



選定委員会の様子

第1回選定委員会に使われた資料

第1回選定委員会では、地域拠点校選定に向けた考え方や各種アンケート調査の結果に基づき議論が交わされました。この各種アンケート調査や資料等も、前述同様に下記の市ホームページにて公表しています。

市ホームページ(公共施設再編の取組)

<http://www.city.kamakura.kanagawa.jp/keiki/facility.html>

(選定委員会や各種アンケートについては、リンク先をご覧ください)



QRコード

第1回選定委員会で議論された主な内容は以下のとおりです。

【選定及び整備に向けた考え方】

- 学校に集約することで、コミュニティを豊かにするような計画が望ましい
- 避難者の受け入れを考えた整備が必要
- 津波避難ビル（特に沿岸部）としての機能を考えるとこれには規制緩和を考えることも必要
- 複合化は「同じ建物内に整備しただけ」や「隣に建てただけ」のものではなく、互いにWIN-WIN（相乗効果が生まれる）となる整備が必要
- 運営や管理の面も一体的に進めていく必要

【公共施設再編に係る意見】

- 公共施設に係るコストの削減には鎌倉市の公共施設の4割以上を占める学校施設についての、議論が不可欠

選定委員会では、上記の議論を踏まえながら地域拠点校の選定についての検討を進め、最終的に市長へ提言を行う予定です。

●経過及び今後のスケジュール

地域拠点校の選定については、平成28年度末までに検討を進める予定です。なお、これまでの経過と今後の主な取組のスケジュールは以下のとおりです。

経過		今後の日程（予定）	
【平成27年】3月	再編計画策定	【平成28年】	
【平成28年】3月	選定委員会条例施行	10月	事例視察
【平成28年】		11月14日	第2回選定委員会
～4月	各種アンケート調査	12月12日	第3回選定委員会
8月31日	第1回選定委員会	【平成29年】	
		1月16日	第4回選定委員会
		2月頃	パブリックコメント
		3月17日	第5回選定委員会

●地域拠点校に関するアンケートの結果について

地域拠点校選定の取組を進めるにあたり、市民の皆さんのご意見を聞くために、今年の2月から4月にかけて、次の3種類のアンケートを行ってきました。ご協力ありがとうございました。抜粋してご紹介いたします。

	郵送によるアンケート	保護者へのアンケート	e-モニターアンケート
対象者	無作為抽出による市民 2,000名	市立小中学校の児童・生徒 11,451人の保護者	本市e-モニター制度登録者 382名
回答者数	751名 (回答率約38%)	6,404名 (回答率約56%)	151名 (回答率約41%)

※アンケート間で重複してご回答をいただいている可能性があります。

設問

地域拠点校として整備する上で、大切なことについてお考えを聞かせください。（複数回答可）

＜単純集計結果及びその比較＞

郵送アンケート（751名）	e-モニターアンケート（151名）
<p>447/751 ⇒約60% 【問14】</p> <p>489/751 ⇒約65%</p>	<p>97/151 ⇒約64% 【e-モニター・質問10】</p> <p>95/151 ⇒約63%</p>
保護者アンケート（6,404名）	比較・分析
<p>5,259/6,404 ⇒約82% 【問6・保護者】</p> <p>4,516/6,404 ⇒約71%</p>	<p>全てのアンケートで「子どもたちの安全性や学校運営に配慮して複合化すること」及び「災害時に役立つ機能を備えること」が1番目若しくは2番目に回答者が多く、6～8割の方がこれらを選ばれています。このことから、これらを特に地域拠点校として整備する上で、大切なことだとお考えであることが分かりました。</p>
<p>(参考) 回答枝</p> <ol style="list-style-type: none"> 1: 子どもたちの安全性や学校運営に配慮して複合化すること 2: 学校施設と複合化する施設の管理区分を明確にすること 3: 教育や子どもの成長に生きる多世代交流ができること 4: 複数の施設で効率的にスペースを共用すること 5: 施設整備や維持管理にかかる費用をおさえること 6: 学校の授業などで複合化する施設を活用できること 7: 災害時に役立つ機能を備えること 8: 特になし、わからない 9: その他 	

